埋設廃棄物もリサイクル
TEL/03-3208-5047
http://www.shinwa-eco.com
『埋設廃棄物・汚染土壌』現場分別、処理といえば
新和環境株式会社
詳しくはWebで 新和環境 検索

発行所
60th plus 4
日報ビジネス株式会社
Vision Vitality Victory
〈東京〉〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3-1-5 電話03(3262)3488 FAX03(5214)6633
〈大阪〉〒541-0054 大阪市中央区南本町1-5-11 電話06(6262)2406 FAX06(6262)2090

12月6日 No.1564
2021年（令和3年）
週刊 月曜発行
発行人 河村 勝志
平成元年9月22日 第3種郵便物承認
購読料 年間 22,900円＋税
（定価） 1部本体 495円＋税

週刊 循環経済新聞
JUNKAN KEIZAI The Recycling Economy Times

電子と紙、そのスキマに
無料セミナー定期開催中
電子と紙の併用における落とし穴・・・
「整合性チェック」を忘れずに。
JEMS

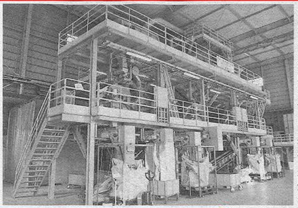
高度選別ラインを新設

金属資源を徹底回収

トピー工業グループ

電炉メーカーで自動車部品大手のトピー工業の連結子会社で、リサイクル事業を担う明海リサイクルセンター（愛知県豊橋市、鎌形和男社長）は、金属高度選別ラインを新設した。同社が保有するシュレッダープラントで発生するシュレッダーダストを再度破砕したうえで精選別することにより、ダスト中の金属資源を徹底して回収。同時に、電炉副資材としての高品質化を図る。（関連記事3面）

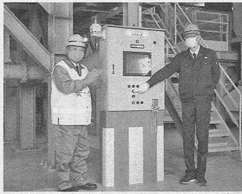
新たに建設した金属高度選別ラインは、建屋面積約980平方㍍。設備は全て環境機器メーカーの近畿工業（神戸市）が納入した。ラインは、スクラップ破砕設備とダスト破砕選別設備で構成しており、シュレッダーダスト中の微細な金属資源も選別回収可能で、従来の含有率が約8%であったものを、最終的に1%未満とすることを実現した。



導入したダスト破砕選別施設

同グループでは、使用済み自動車や雑品などを明海リサイクルセンターのシュレッダープラントで破砕して金属資源を回収。さらにシュレッダーダストを固化し、炭材の代替品として電炉で活用するリサイクルシステムを構築している。今回の設備導入で、代替品中の銅をはじめとする不純物成分を除去し、炭材としての高品質化と、有価金属の回収増による収益の拡大につなげる考えだ。

11月4日には、同施設の稼働式を挙行。あいさつに立ったトピー工業の田中克芳執行役員スチール事業部長は「ESGへの感心が高まる中、資源回収の効率化でより地球環境に優しい事業を展開していきたい」と述べた。また、明海リサイクルセンターの鎌形社長は「グループの強みを生かし、ゼロエミッションと事業の拡大に貢献したい」と抱負を語った。



稼働スイッチを押す鎌形社長(右)と田中執行役員(左)

来年4月施行の準備へ

処分施設には必要な許認可

プラ資源循環法の政省令固まる

中環審／産構審

中央環境審議会循環型社会部会プラスチック資源循環小委員会と産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会プラスチック資源循環戦略ワーキンググループは11月22日、ウェブで第11回合同会議を開いた。環境省と経済産業省は「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律（以下、「プラスチック資源循環法」）」の政省令・告示に関する案を示し、両審議会の委員からは「特段の見直しの必要はなし」とされて、来年4月1日の施行準備に入った。

政省令・告示の案としては、▽基本方針▽プラスチック使用製品設計指針▽特定プラスチック使用製品の使用の合理化▽市区町村の分別収集・再商品化（プラスチック資源としての一括回収、中間処理工程の一体化・合理化）▽製造事業者等による自主回収・再資源化▽排出事業者による排出の抑制（判断基準）▽排出事業者による再資源化等（再資源

PETボトルリサイクル推進協議会

2年連続で85%以上

"ボトル to ボトル"が進む

PETボトルリサイクル推進協議会（金子友昭会長）は11月24日、オンライン説明会で、2020年度のPETボトルのリサイクル率が88・5%になったことを明らかにした。金子会長は、「第3次自主行動計画である『リサイクル率目標85%以上維持』を19年度に続いて達成することができた。飲料業界による"ボトル to ボトル"の量は8万6300㌧となり、着実に進んでいる」と述べた。

20年度の回収量（キャップ・ラベル・異物を含む）は63万7000㌧で、そのうち国内向け回収量が44万㌧（市町村29万2000㌧、事業系14万7000㌧）、海外向け回

記者説明会のようす（中央が金子会長）

出展社募集中!!
アジア最大級
2022 NEW 環境展
2022年 5月25日(水)▶27日(金)
東京ビッグサイト
主催▶日報ビジネス株式会社
https://www.n-expo.jp URL変わりました

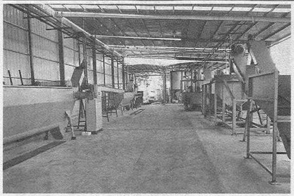
野田工場が生産拡大

2種類の大型ライン導入

東洋亜星

資源プラ回収とリサイクルで実績を重ねる亜星商事（茨城県笠間市、山下強社長、☎0299・57・3928）は、東洋海運通商と共同出資で「東洋亜星」を3年前に設立。最近、PETボトルリサイクルから発生する多様な副産物を対応できる2種類の大型ラインを導入し稼働した。

東洋亜星は、地の利もよく、千葉、茨城、埼玉の境目で、野田工場を作った。そこでPE、PPの廃プラを粉砕、洗浄加工して笠間工場へ転送しペレット化をする機能を持ちながら、PETのパウダー由来の再生ペレットを作り始めた。



40mの長いラインを設置

野田工場の敷地面積は2000坪あり、建屋も2000平方㍍の広さ。そしてトラックスケールを設置して、大型破砕機、粉砕機、ギロチン、洗浄ライン、比重分離工程から2軸押出機1ラインをそろえている。

現在国内でPETボトルリサイクル事業に参入する企業が増えている中、はじかれた色付き、ナイロン複合のボトル、粉砕洗浄工程から発生するパウダー等の副産物も急増している。

亜星商事の笠間工場では、元々PETボトルのキャップ由来のペレットを大量に作ってきた。これから野田工場と合わせてPETボトルリサイクルから発生する副産物に対して総合的に対応できるようになる。

PETパウダーの中に、土や砂、金属等の異物も混入し、処理困難な物が多いが、亜星は長年蓄積したノウハウで徹底的な分離を行い、高品質なペレット

PETボトルR副産物に全対応

PET粉砕時に発生するパウダー

移動式環境リサイクル機械の事なら